

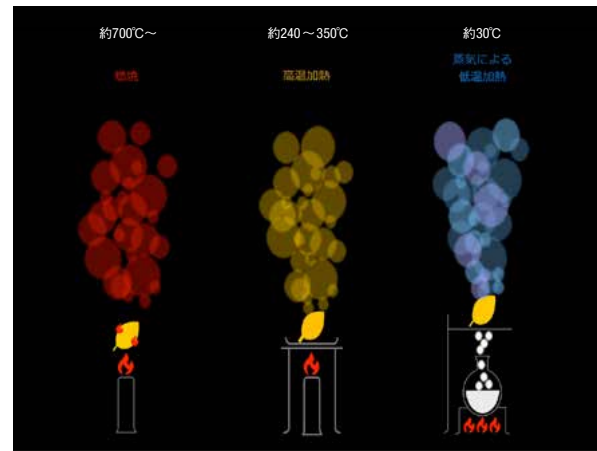
開発の
哲学

JT独自の 「低温加熱方式」

ここ数年で急速に普及している加熱式たばこ。各社が競い合うように販売を繰り広げており、どれも人気だが、その仕組みはそれぞれで異なっている。とくにJT(日本たばこ産業)が開発したプルーム・テックは、同じ加熱式たばこに分類されるものの、まったく別の考え方にもとづき開発された。未来のたばこといえるものだ。

そのキーワードとなるのが、「低温加熱方式」。まず一般的な紙巻たばこの場合、およそ700度という高温で直接たばこの葉を燃焼させる。たばこ独特の煙やタールは、この燃焼にもなっており発生する。一方、プルーム・テックを除く加熱式たばこは、約240〜350度の温度でたばこの葉を加熱する方式だ。

それに対してプルーム・テックは、約30度という低い温度で加熱する低温加熱方式。しかもたばこの葉を直接加熱するのではなく、たばこリキッドを熱し、発生した蒸気をたばこの葉のつまったカプセルを通して吸う仕組みだ。こうした独自の仕組みにこだ



わったのは、プルーム・テックが「無臭」を追求したのがゆえ。JTが行った臭気濃度測定調査では、従来の紙巻たばこの臭気の濃さ100に対して、プルーム・テックはわずか0.2。非喫煙者へのアンケートでも約99パーセントの人が、「においが気にならない」と回答した。使用方法の便利さやリソースナブルな値段も大きな魅力で、ほかのたばことの併用も考えられる。プルーム・テックの登場で、喫煙のあり方そのものが大きく変わりそうだ。



プルーム・テック・スターキット 4,000円(税込)

都内で
約540店舗



メビウス・フォー・プルーム・テック(プルーム・テック専用たばこカプセル)はフレーバーライン3種とスタンダードライン2種が発売中。各460円(税込)

No smoking, Ploom TECH only 利用できる飲食店、拡大中!

プルーム・テックは2016(平成28)年3月に福岡県福岡市限定で発売が開始されたが、注文が殺到し一時販売中止となるほどの人気に。17年6月には東京での販売がはじまり、銀座、新宿ではプルーム・テックの専門店もオープンした。来年、18年の全国販売に向けて、さらに注目が集まりはじめている。販路の拡大にともなって、都内を中心に「禁煙スペースでもプルーム・テ

ックのみ使用可」という飲食店が増えており、その数は今年10月末時点で、都内約540店舗を数えるまでになっている。プルーム・テックが使用できれば、喫煙者而非喫煙者のいる大人数の宴席などでも会話がつながると好評。店側もサービス向上につながると、手応えを感じている。「においがしない」というプルーム・テックの特徴がさらに広まれば、こうしたお店もさらに拡大していくはずだ。



スターキットの内容物。バッテリー(左上)、USBチャージャー(左)、ACアダプター(中)、キャリーケース(右)